

第三十七話

平成二十九年 十一月六日

「風に付く」「風を食らう」

あまびと（海人）は風よ読む。読み違えば生死に関わる。

[日本人] になる前の古代日本列島の住人は海人。帆掛け船の達人。

いまでも「風」にまつわる語彙。慣用句は数え切れない。

風に付く（風にまかせる）術。風を食らう(様子に感づいてすばやく逃げ去る)術は先祖譲り。

政治家生命を懸け追風、逆風を読む霞ヶ関の住人。

武士の道にも追風、逆風は吹く。

関ヶ原合戦、風を読み違えた武士は敗者となった。

いまの世の関ヶ原合戦。戦場は先の衆議院選報道。

風を読めない、読みたくないマスメディアは敗者となった。

勝者はネット。

かったマスメディア v s ネットの戦いに終止符が打たれた。

かつてマスメディアは、大鎧を身につけた騎乗の武者だった。

地を這う雑兵は鹵向かうなど、もってのほかの権威を身にまとっていた。

合戦の方法が変わった。

雑兵が臆せず地べたから騎乗の武者に槍を繰り出す。

大鎧を身につけた騎乗の武者が権威ではなくなった。

帆掛け船の海人でなくなった吾らの「風」とは何か？

合戦の方法だ。方法が変わるのは武器の変化だ。

1900年代末、日本武道具さんはホームページを立ち上げた。

武道通信も1900年代末、ホームページを立ち上げた。

これで“繋がった”

2010年代、中学生も使える武器、Social Network Service。

これで“繋がる”アツケラカンさ。

老若男女が討死する。

日本列島、かつて多様な武器が出現して今日に至る。

武器は多様に変化したが、心の構えとしての武器、日本刀が常にあった

小柄工房の一差でも持ちなされ。